



2018年12月期 第2四半期 決算説明会資料

荏原 (6361)

2018年8月9日

Looking ahead,
going beyond expectations

Ahead > *Beyond*

株式会社 荏原製作所

1. 決算概要

執行役
経理財務担当

長峰 明彦

2. 今期の見通しと経営戦略

代表執行役社長

前田 東一

	<参考値> 2017年12月期※ 第2四半期	2018年12月期 第2四半期	増減	<参考値> 2018年12月期 第2四半期	増減
	実績 (A)	実績 (B)	対前期比 (B-A)	計画※1 (C)	対計画比 (B-C)
受注高	2,576	3,008	+ 431	2,900	+ 108
売上高	2,638	2,512	△ 126	2,500	+ 12
営業利益	240 (9.1%)	147 (5.9%)	△ 93	120 (4.8%)	+ 27
経常利益	238 (9.0%)	141 (5.6%)	△ 96	120 (4.8%)	+ 21
親会社株主に帰属する 四半期純利益	162 (6.2%)	74 (3.0%)	△ 87	70 (2.8%)	+ 4

為替レート
(平均)

1ドル = 110.2円

1ドル = 109.7円

() 内は売上高に対する比率

※：本資料上で「<参考値>2017年12月期」として示す数値は2018年12月期の業績を同一期間と比較するために2017年12月期(変則9か月決算)の実績を2017年1月~12月に組み替えた数値(非監査)です。

また、「<参考値>2017年12月期第2四半期」の期間は2017年1月から6月です。

※1：2018年5月14日発表時点のものです。

※2：本資料において「1Q」は3か月累計期間、「2Q」は6か月累計期間、「3Q」は9か月累計期間、「通期」は12か月累計期間を示しています。またこのページ以降、特別な記載がない限り、数値の単位を『億円』で表示しています。

1. 決算概要

2018年12月期第2四半期決算 事業セグメント別



	受注高			売上高			営業利益		
	<参考値> 2017年 12月期 第2四半期	2018年 12月期 第2四半期	増減	<参考値> 2017年 12月期 第2四半期	2018年 12月期 第2四半期	増減	<参考値> 2017年 12月期 第2四半期	2018年 12月期 第2四半期	増減
風水力事業	1,547	1,615	+ 68	1,550	1,543	△ 6	105 (6.8%)	22 (1.5%)	△ 82
環境プラント 事業	375	658	+ 282	355	293	△ 61	24 (7.0%)	22 (7.6%)	△ 2
精密・電子 事業	645	726	+ 80	724	667	△ 57	108 (15.0%)	100 (15.1%)	△ 7
その他 調整	8	8	△ 0	8	8	△ 0	1 (16.0%)	1 (20.5%)	+ 0
合計	2,576	3,008	+ 431	2,638	2,512	△ 126	240 (9.1%)	147 (5.9%)	△ 93

() 内は売上高に対する比率

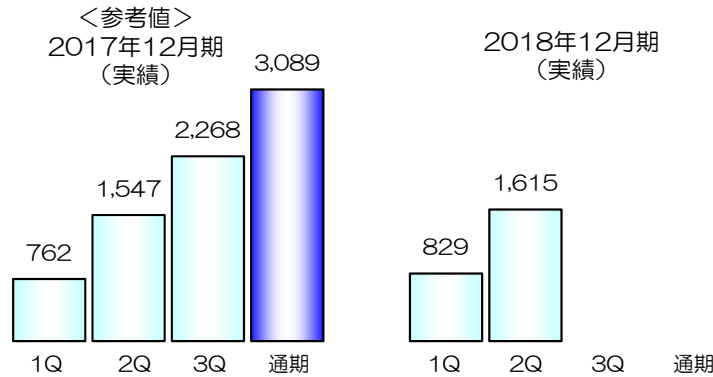
1. 決算概要

2018年12月期第2四半期決算 事業セグメント別

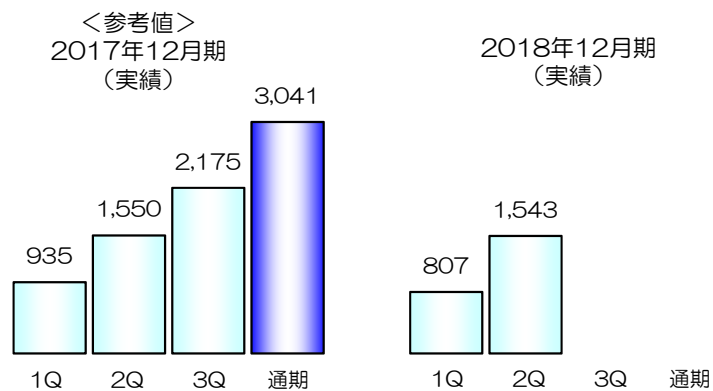


風水力事業

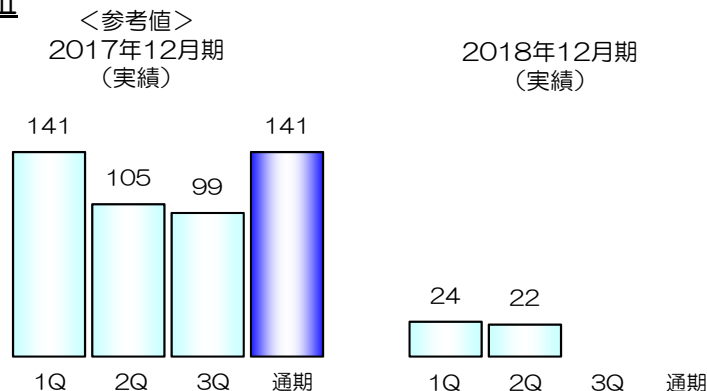
受注高



売上高



営業利益



【受注高】

✓ コンプレッサ・タービン事業が製品を中心に増加

【売上高】

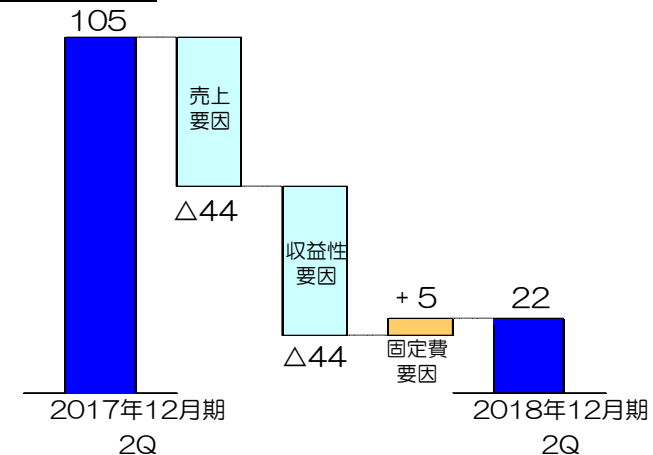
✓ サービス&サポート (S&S) が減少。

S&S比率	2017年12月期 2Q	2018年12月期 2Q
風水力全体	39.1%	33.6%
ポンプ事業	28.4%	27.1%
コンプレッサ・タービン事業	61.7%	45.3%

【営業利益】

✓ S&S売上の構成比が減少 (-)

増減要因分析



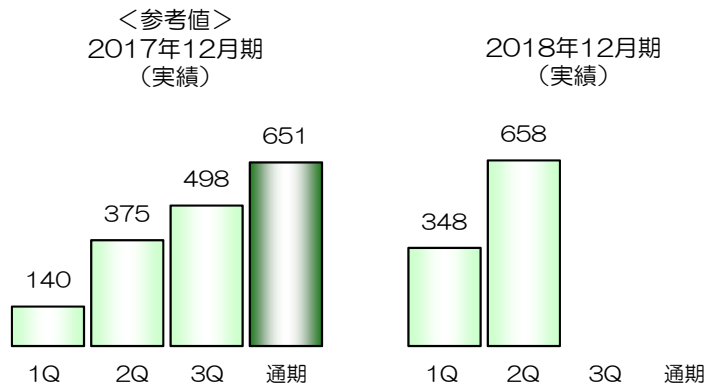
1. 決算概要

2018年12月期第2四半期決算 事業セグメント別



環境プラント事業

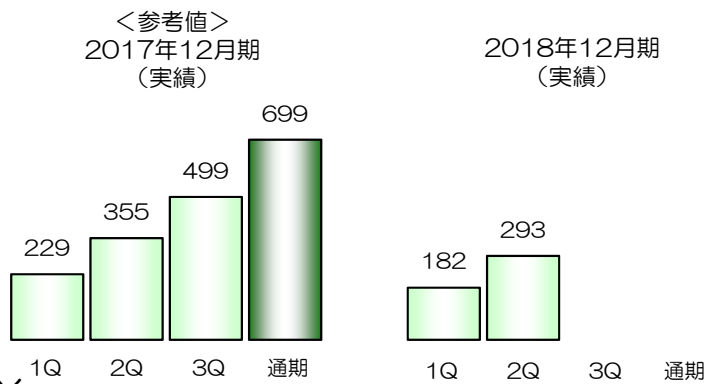
受注高



【受注高】

✓ 上期は高い水準で着地

売上高

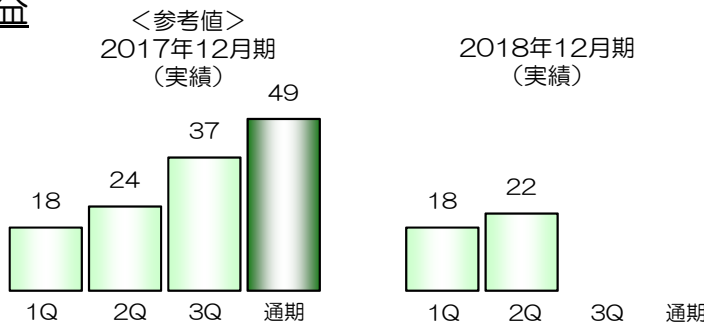


【営業利益】

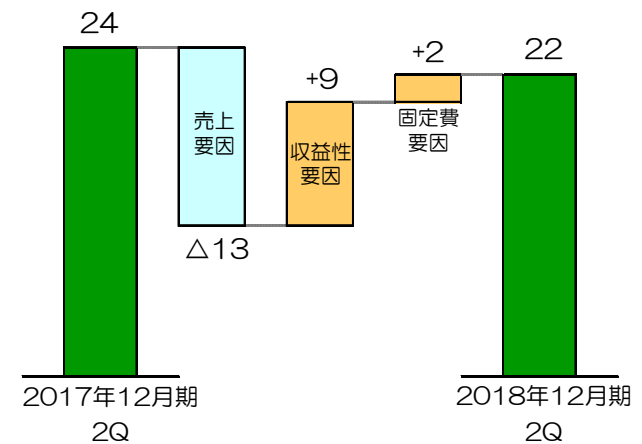
✓ 減収の影響 (-)

✓ O&Mの構成比が増加 (+)

営業利益

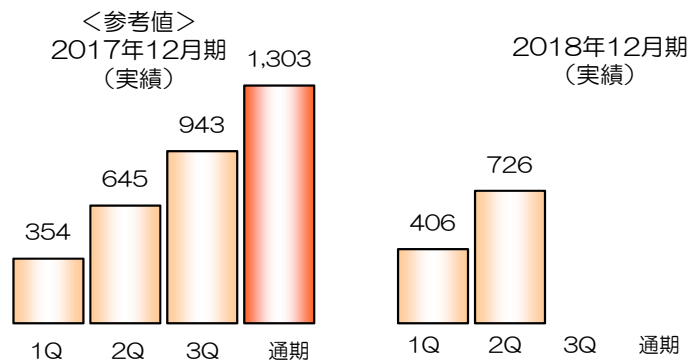


増減要因分析

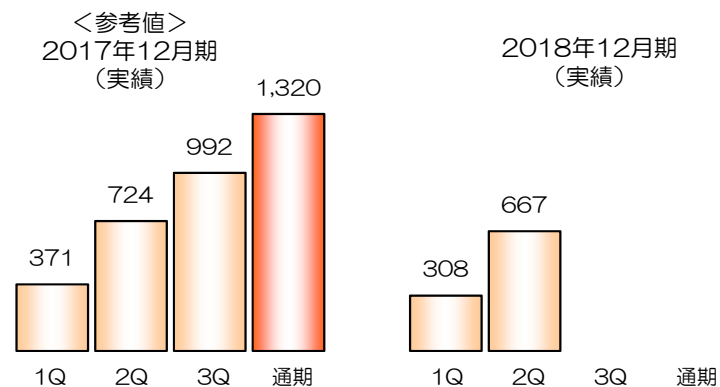


精密・電子事業

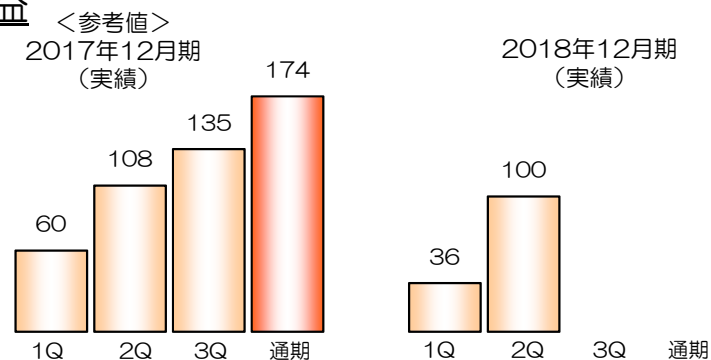
受注高



売上高



営業利益



【受注高】

- ✓ 半導体市場の設備投資は引続き堅調
- ✓ CMP事業、コンポーネント事業共に増加

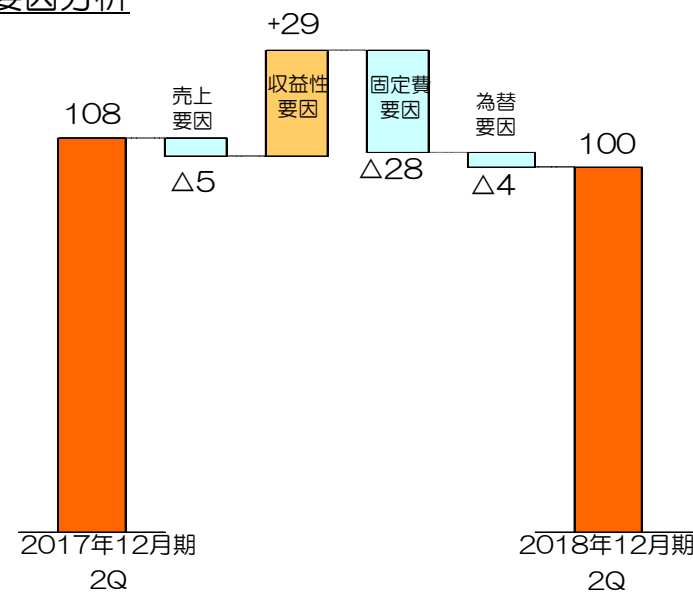
【売上高】

- ✓ コンポーネント事業で増加
- ✓ CMP事業は減少したが、水準としては高いレベル

【営業利益】

- ✓ 人件費・研究開発費を中心に固定費が増加 (-)
- ✓ CMP事業で案件ミックスが改善 (+)

増減要因分析

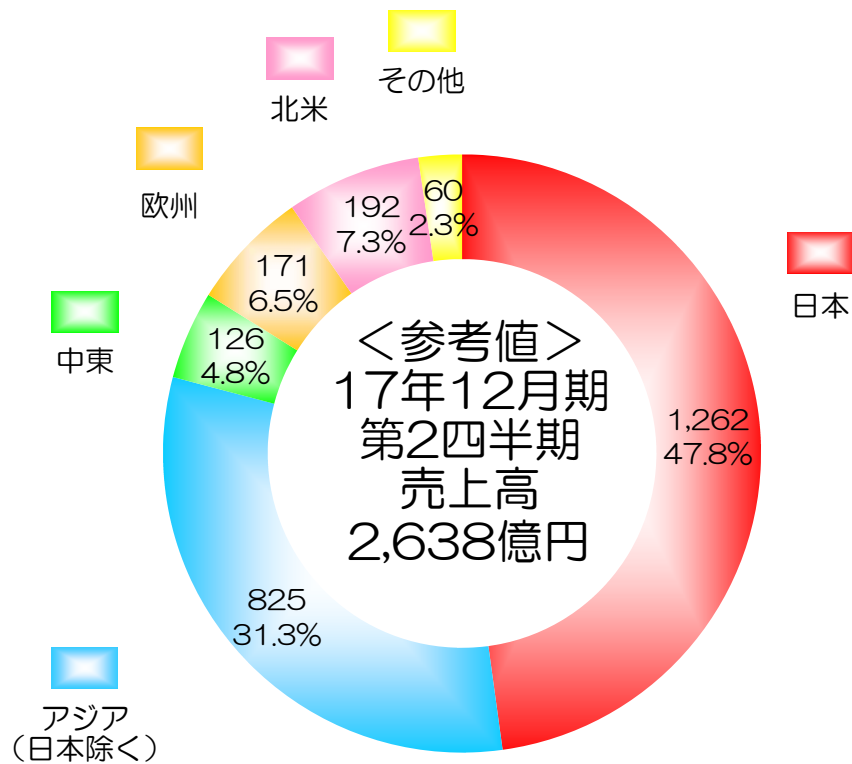


《補足資料》2018年12月期 第2四半期決算 業績見通しとの比較



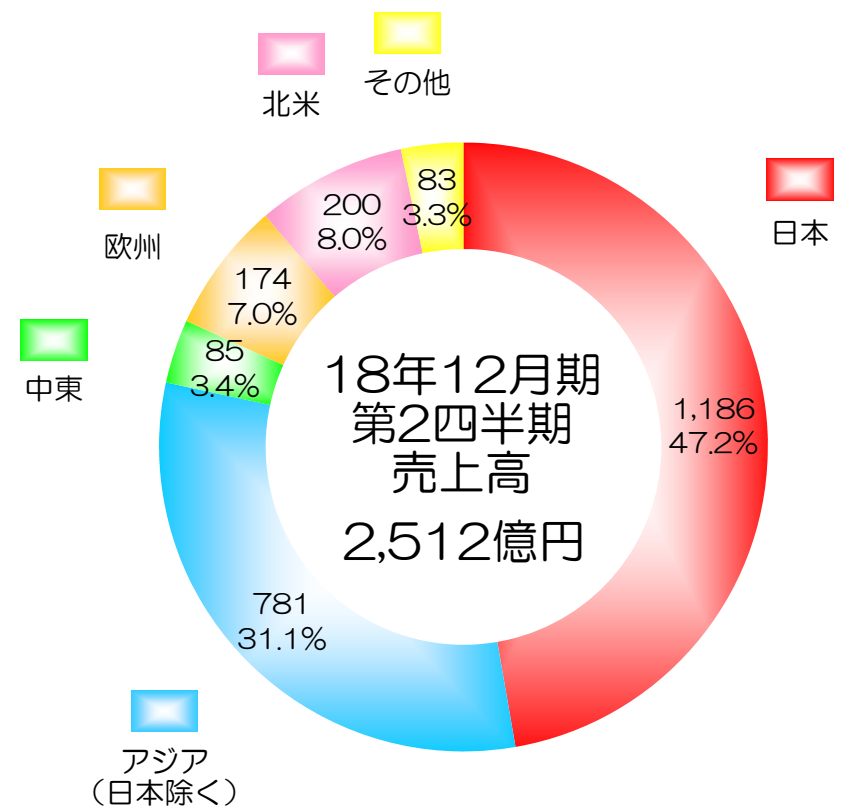
		＜参考値＞ 2017年 12月期 第2四半期	2018年 12月期 第2四半期		増減	
			実績	計画	実績	対計画比
風水力事業	受注高	1,547	1,595	1,615	+ 20	+ 68
	売上	1,550	1,525	1,543	+ 18	△ 6
	営業利益	105 (6.8%)	10 (0.7%)	22 (1.5%)	+ 12	△ 82
環境 プラント 事業	受注高	375	600	658	+ 58	+ 282
	売上	355	310	293	△ 16	△ 61
	営業利益	24 (7.0%)	25 (8.1%)	22 (7.6%)	△ 2	△ 2
精密・電子 事業	受注高	645	700	726	+ 26	+ 80
	売上	724	660	667	+ 7	△ 57
	営業利益	108 (15.0%)	85 (12.9%)	100 (15.1%)	+ 15	△ 7
その他 調整	受注高	8	5	8	+ 3	△ 0
	売上	8	5	8	+ 3	△ 0
	営業利益	1 (16.0%)	0 (0%)	1 (20.5%)	+ 1	+ 0
合計	受注高	2,576	2,900	3,008	+ 108	+ 431
	売上	2,638	2,500	2,512	+ 12	△ 126
	営業利益	240 (9.1%)	120 (4.8%)	147 (5.9%)	+ 27	△ 93

() 内は売上高に対する比率



海外売上高
1,376億円

海外売上比率
52.2%



海外売上高
1,325億円

海外売上比率
52.8%

	2017年 12月末	2018年 6月末	増減
流動資産	4,474	4,721	+ 246
現預金、有価証券	1,408	1,797	+ 389
売上債権	1,753	1,540	△ 212
棚卸資産	1,095	1,174	+ 79
その他	217	208	△ 9
固定資産	1,654	1,607	△ 46
有形固定資産	1,102	1,072	△ 29
無形固定資産	120	116	△ 4
投資その他	431	418	△ 12
資産合計	6,129	6,328	+ 199

	2017年 12月末	2018年 6月末	増減
負債	3,281	3,456	+ 175
仕入債務	1,196	1,292	+ 95
有利子負債	1,145	1,170	+ 24
その他	939	994	+ 55
純資産	2,847	2,872	+ 24
株主資本	2,809	2,880	+ 70
その他の包括利益	△ 30	△ 75	△ 45
新株予約権	11	11	△ 0
非支配株主持分	56	56	△ 0
負債・純資産合計	6,129	6,328	+ 199

<経営指標>

	2017年 3月期	2017年 12月期
	実績	実績
ROIC	5.6%	2.5%
ROE	8.0%	3.5%
D/Eレシオ	0.36	0.41

<キャッシュフロー>

	2017年 3月期	2017年 12月期	2018年 12月期	2017年 12月期 第2四半期	2018年 12月期 第2四半期
	実績	実績	計画	実績	実績
営業活動CF	+ 338	+ 441	+ 360	+ 418	+ 458
投資活動CF	△ 185	△ 79	△ 250	△ 66	△ 81
フリーCF	+ 152	+ 362	+ 110	+ 352	+ 377
財務活動CF	△ 151	+ 112	△ 146	+ 50	+ 10

＜資本的支出・減価償却費・研究開発費＞

	2017年 3月期	2017年 12月期	2018年 12月期	2017年 12月期 第2四半期	2018年 12月期 第2四半期
	実績	実績	計画	実績	実績
資本的支出	226	123	230	65	66
風水力	118	66	90	29	38
環境プラント	11	4	5	2	3
精密・電子	74	40	90	24	18
その他	23	12	45	9	6
減価償却費	137	119	150	73	77
風水力	85	69	75	42	44
環境プラント	4	4	5	2	2
精密・電子	29	27	45	16	19
その他	18	16	25	11	11
研究開発費	87	72	130	40	47
風水力	47	38	50	22	23
環境プラント	2	3	5	2	1
精密・電子	37	30	75	15	22

2. 今期の見通しと 経営戦略

2018年12月期の業績見通し



	<参考値> 2017年 12月期	2018年 12月期	2018年 12月期	増減	
	実績	計画*	見込み	対計画比	対前期比
受注高	5,060	5,450	5,550	+ 100	+ 489
売上高	5,078	5,050	5,050	-	△ 28
営業利益	366 (7.2%)	370 (7.3%)	370 (7.3%)	-	+ 3
経常利益	354 (7.0%)	360 (7.1%)	360 (7.1%)	-	+ 5
親会社株主に 帰属する 当期純利益	227 (4.5%)	220 (4.4%)	220 (4.4%)	-	△ 7

※2018年5月14日発表時点のもの。以下同じ。

() 内は売上高に対する比率

<参考値>

為替レート

1ドル = 112円
(平均)

1ドル = 110円
(想定)

1ドル = 110円
(想定)

2. 今期の見通しと 経営戦略

2018年12月期の業績見通し



		<参考値> 2017年12月期		2018年12月期	2018年12月期	増減	
		実績	計画	見込み	対計画比	対前期比	
風水力事業	受注高	3,089	3,140	3,240	+ 100	+ 150	
	売上高	3,041	3,140	3,140	-	+ 98	
	営業利益	141 (4.7%)	135 (4.3%)	135 (4.3%)	-	△ 6	
環境プラント 事業	受注高	651	900	900	-	+ 248	
	売上高	699	600	600	-	△ 99	
	営業利益	49 (7.1%)	60 (10.0%)	60 (10.0%)	-	+ 10	
精密・電子 事業	受注高	1,303	1,400	1,400	-	+ 96	
	売上高	1,320	1,300	1,300	-	△ 20	
	営業利益	174 (13.2%)	170 (13.1%)	170 (13.1%)	-	△ 4	
その他 調整	受注高	16	10	10	-	△ 6	
	売上高	16	10	10	-	△ 6	
	営業利益	1 (8.0%)	5 (50.0%)	5 (50.0%)	-	+ 3	
合計	受注高	5,060	5,450	5,550	+ 100	+ 489	
	売上高	5,078	5,050	5,050	-	△ 28	
	営業利益	366 (7.2%)	370 (7.3%)	370 (7.3%)	-	+ 3	

2. 今期の見通しと 経営戦略

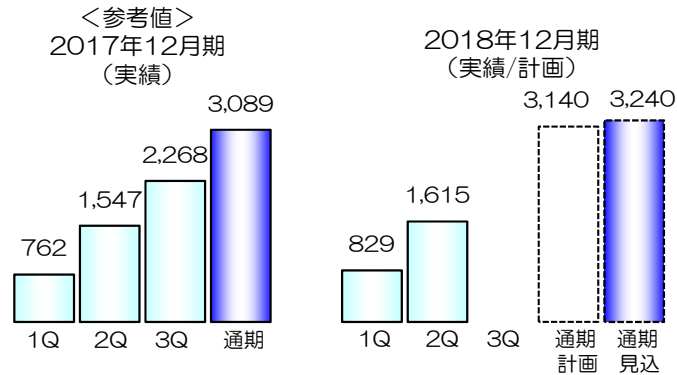
2018年12月期決算見通し 事業セグメント別



風水力事業

(計画からの変更) <受注高>

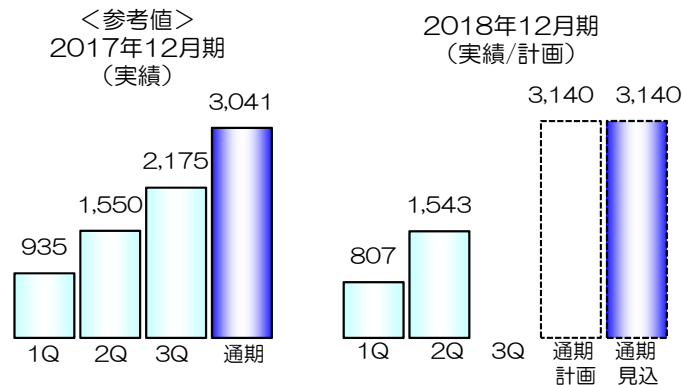
受注高



【受注高】

- ✓ コンプレッサ・タービン事業の顧客の設備投資は順調に回復しており、受注を上方修正
- ✓ ポンプ事業はカスタムポンプの需要回復が進み、計画を達成する見込み

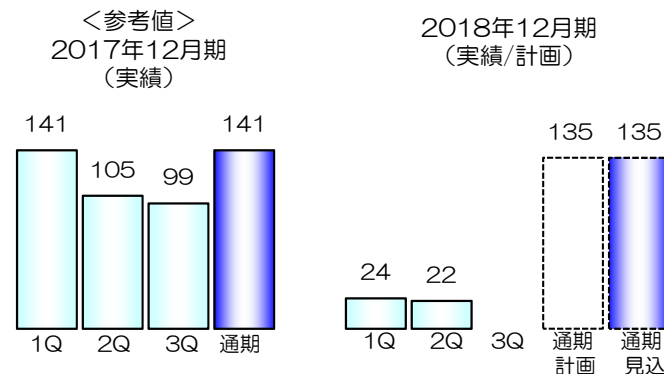
売上高



【売上高・営業利益】

- ✓ ポンプ事業は計画通りの進捗
- ✓ 収益性の高いコンプレッサ・タービン事業のS&Sの売上は期末に集中する見込み

営業利益



2. 今期の見通しと 経営戦略

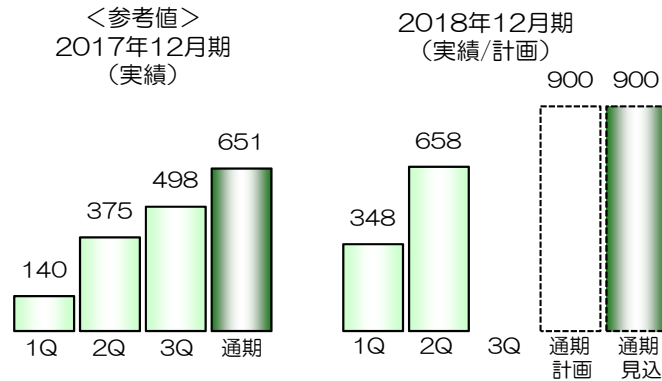
2018年12月期決算見通し 事業セグメント別



環境プラント事業

(計画からの変更なし)

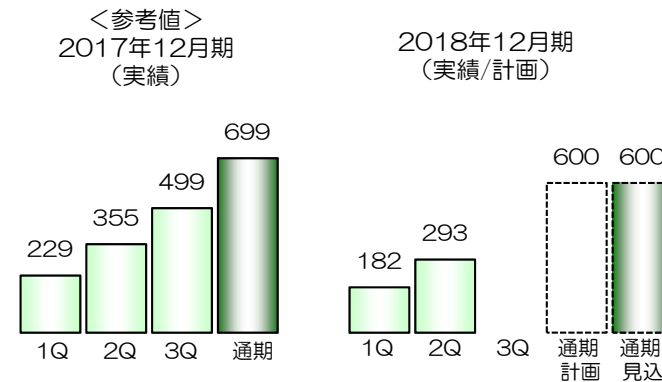
受注高



【受注高】

✓ 計画達成に向け好調

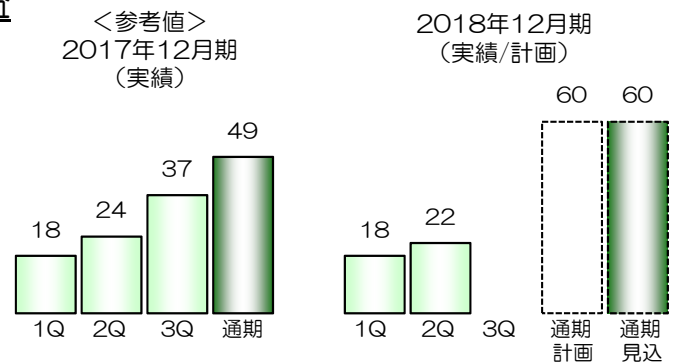
売上高



【売上高】

✓ 計画通り着地する見込み

営業利益



【営業利益】

✓ O&Mの構成比の増加により収益性が改善し
計画を達成する見込み

2. 今期の見通しと経営戦略

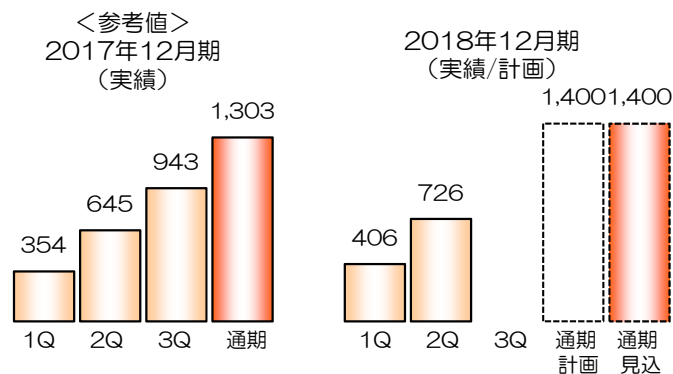
2018年12月期決算見通し 事業セグメント別



精密・電子事業

(計画からの変更) <受注高・売上高 (セグメント内の内訳)>

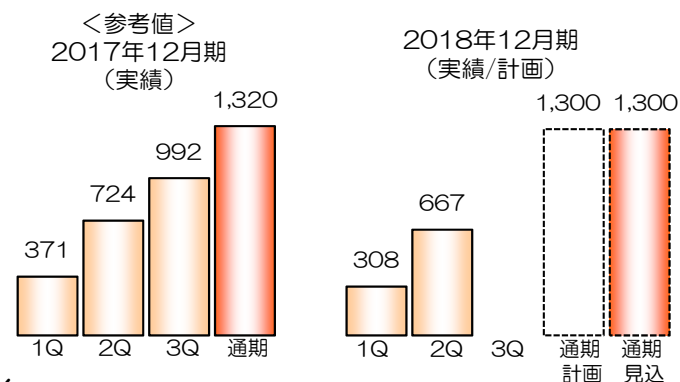
受注高



【受注高・売上高】

- ✓ 半導体市場の設備投資は高い水準が持続する見込み
- ✓ 製品毎には顧客投資動向に応じて計画を修正

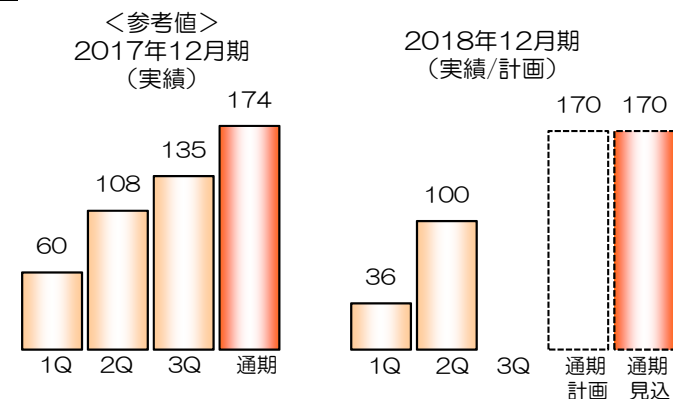
売上高



【営業利益】

- ✓ 研究開発費の期ずれもあり固定費は増加の見込み
- ✓ 顧客での評価を含む開発案件は後半に集中

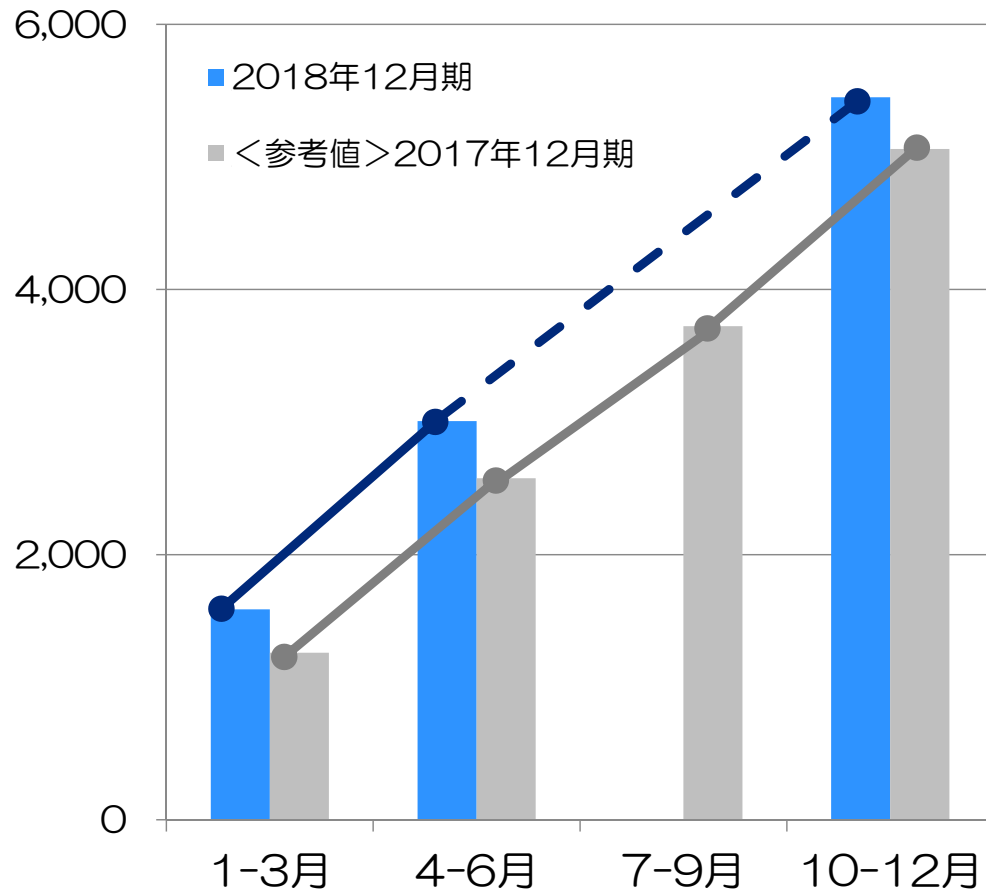
営業利益



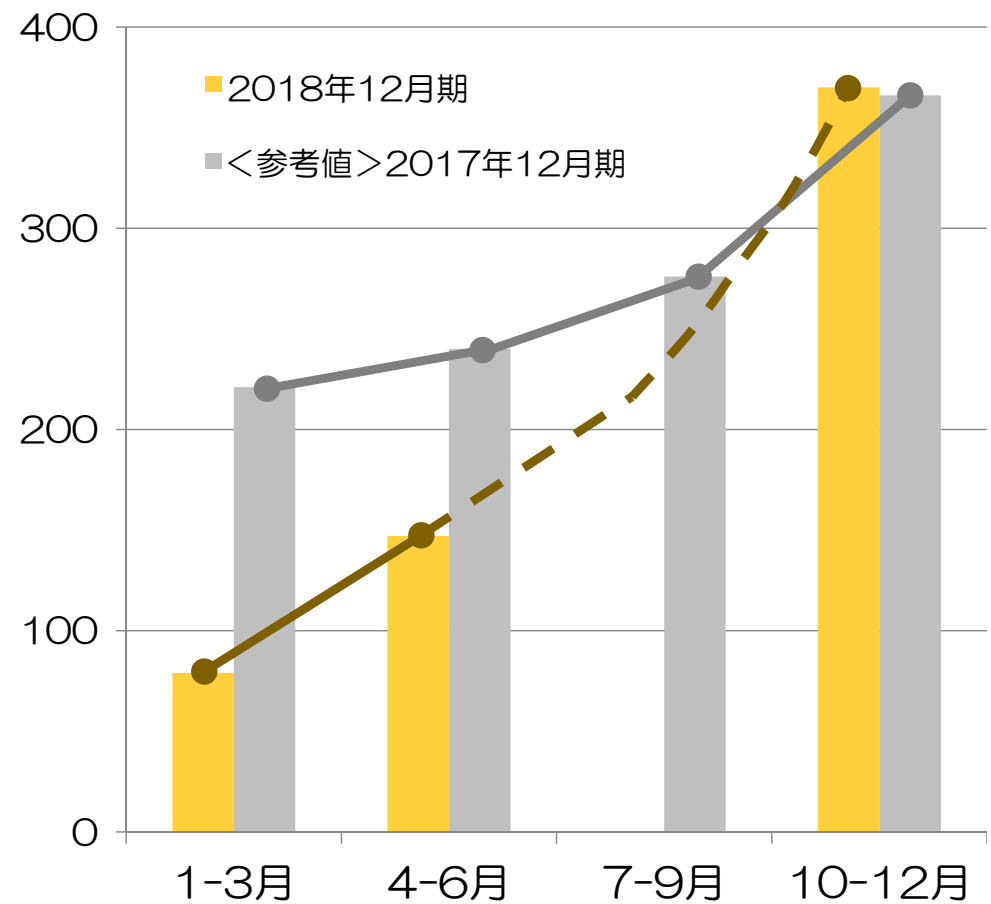
受注高・営業利益の推移

✓ 目標達成に向け、受注高・営業利益はグラフのイメージで推移する

受注高



営業利益



受注高

	通期					第2四半期				
	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期			増減	〈参考値〉 2017年 12月期 実績 (A)	2018年 12月期 計画 (B)	2018年 12月期 実績 (C)	増減 (対計画比) (C-B)	増減 (対前期比) (C-A)
		計画	見込み	増減						
風水力事業										
ポンプ	1,742	1,780	1,780	-	+ 37	890	860	849	△ 10	△ 40
コンプレッサ・タービン	833	850	950	+ 100	+ 116	391	500	507	+ 7	+ 116
冷熱	345	370	370	-	+ 24	179	175	194	+ 19	+ 15
その他	167	140	140	-	△ 27	86	60	62	+ 2	△ 23
風水力事業 計	3,089	3,140	3,240	+ 100	+ 150	1,547	1,595	1,615	+ 20	+ 68
環境プラント事業										
環境プラント	651	900	900	-	+ 248	375	600	658	+ 58	+ 282
環境プラント事業 計	651	900	900	-	+ 248	375	600	658	+ 58	+ 282
精密・電子事業										
コンポーネント	598	650	640	△ 10	+ 41	296	320	307	△ 12	+ 11
CMP装置	627	710	710	-	+ 82	307	360	387	+ 27	+ 79
その他	77	40	50	+ 10	△ 27	41	20	31	+ 11	△ 10
精密・電子事業 計	1,303	1,400	1,400	-	+ 96	645	700	726	+ 26	+ 80
その他	16	10	10	-	△ 6	8	5	8	+ 3	△ 0
その他 計	16	10	10	-	△ 6	8	5	8	+ 3	△ 0
合計	5,060	5,450	5,550	+ 100	+ 489	2,576	2,900	3,008	+ 108	+ 431

※第1四半期連結会計期間より、従来「ポンプ事業」に含めていたクライオポンプ（LNG（液化天然ガス）移送用ポンプ）事業を、「コンプレッサ・タービン事業」に含めています。また、前年度同一期間の受注高及び売上高についても、変更後の区分に組替えています。

売上高

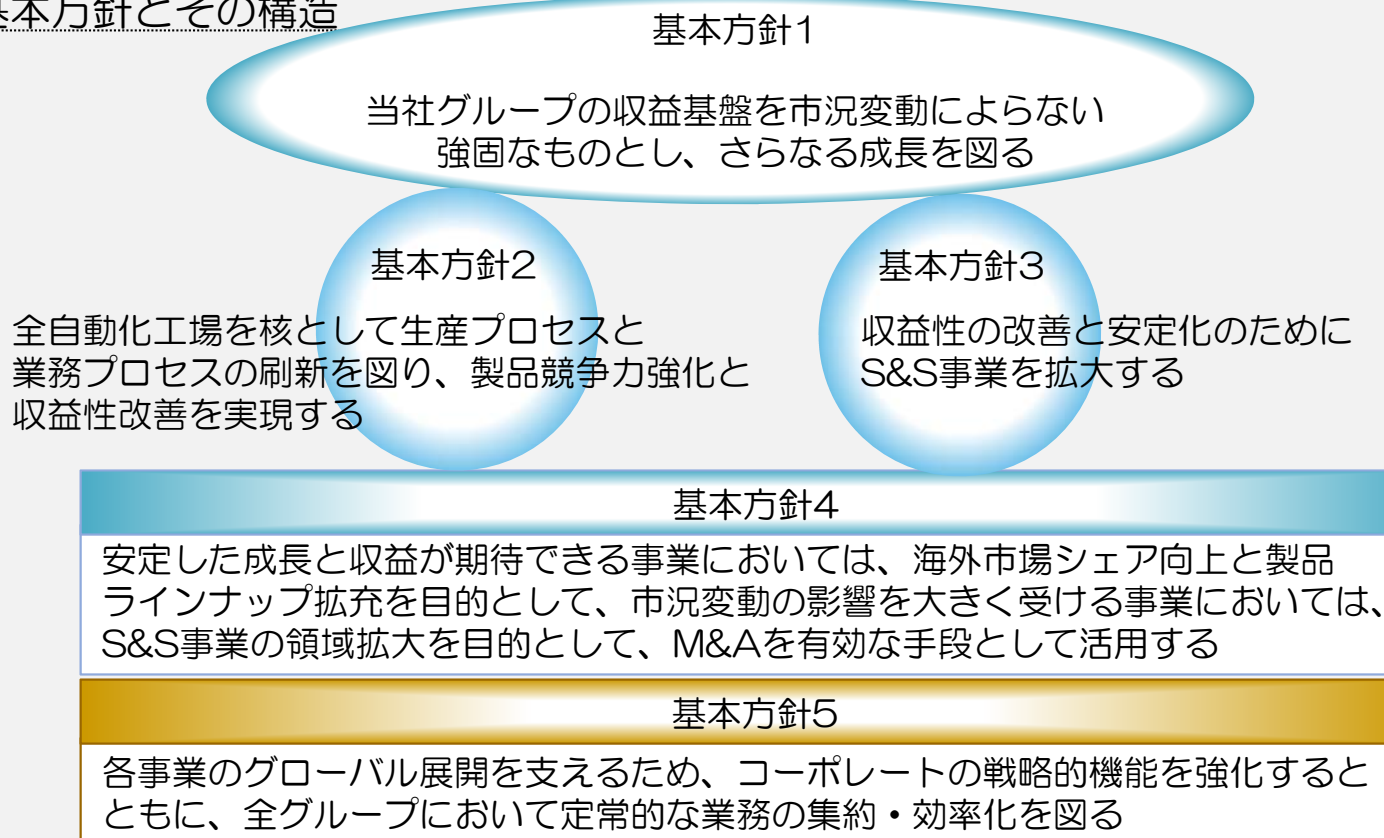
	通期					第2四半期				
	〈参考値〉 2017年 12月期 実績	2018年 12月期			増減	〈参考値〉 2017年 12月期 実績 (A)	2018年 12月期 計画 (B)	2018年 12月期 実績 (C)	増減 (対計画比) (C-B)	増減 (対前期比) (C-A)
		計画	見込み	増減						
風水力事業										
ポンプ	1,685	1,780	1,780	-	+ 94	886	890	905	+ 15	+ 18
コンプレッサ・タービン	838	850	850	-	+ 11	410	410	406	△ 3	△ 4
冷熱	358	370	370	-	+ 11	164	160	167	+ 7	+ 2
その他	159	140	140	-	△ 19	87	65	63	△ 1	△ 23
風水力事業 計	3,041	3,140	3,140	-	+ 98	1,550	1,525	1,543	+ 18	△ 6
環境プラント事業										
環境プラント	699	600	600	-	△ 99	355	310	293	△ 16	△ 61
環境プラント事業 計	699	600	600	-	△ 99	355	310	293	△ 16	△ 61
精密・電子事業										
コンポーネント	570	580	580	-	+ 9	280	290	306	+ 16	+ 26
CMP装置	685	690	670	△ 20	△ 15	413	350	321	△ 28	△ 91
その他	64	30	50	+ 20	△ 14	31	20	38	+ 18	+ 7
精密・電子事業 計	1,320	1,300	1,300	-	△ 20	724	660	667	+ 7	△ 57
その他	16	10	10	-	△ 6	8	5	8	+ 3	△ 0
その他 計	16	10	10	-	△ 6	8	5	8	+ 3	△ 0
合計	5,078	5,050	5,050	-	△ 28	2,638	2,500	2,512	+ 12	△ 126

※第1四半期連結会計期間より、従来「ポンプ事業」に含めていたクライオポンプ（LNG（液化天然ガス）移送用ポンプ）事業を、「コンプレッサ・タービン事業」に含めています。また、前年度同一期間の受注高及び売上高についても、変更後の区分に組替えています。

E-Plan2019におけるポンプ事業の位置付け

E-Plan2019：“成長への飽くなき挑戦”

5つの基本方針とその構造



➤ 最大の事業である「ポンプ事業」の収益性改善が最重要テーマ

2. 今期の見通しと 経営戦略

E-Plan2019 ポンプ事業の施策の進捗



2019年において達成すべきポンプ事業の目標

➤ 売上高営業利益率 8.0% 以上

施策と進捗



: 進捗・効果共に順調



: 進捗は順調だが効果はこれから

	標準ポンプ		カスタムポンプ	
	施策	進捗	施策	進捗
収益性改善	<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>既存機種</u>の統廃合 ➤ <u>生産体制</u>の抜本的な見直し ➤ 業務の効率化 	 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 産業別のマーケティング組織の強化 ➤ “デジタル化”の推進 ➤ 業務の標準化 	
売上増加	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新製品の継続的な市場投入 ➤ M&Aの活用 	 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ M&Aの活用 	
S&S拡大	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>海外S&S事業</u>の拡大 	
固定費削減	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国内事業の人員適正化 		<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>国内生産体制</u>の構造改革 	

2. 今期の見通しと経営戦略

E-Plan2019 ポンプ事業の施策の進捗

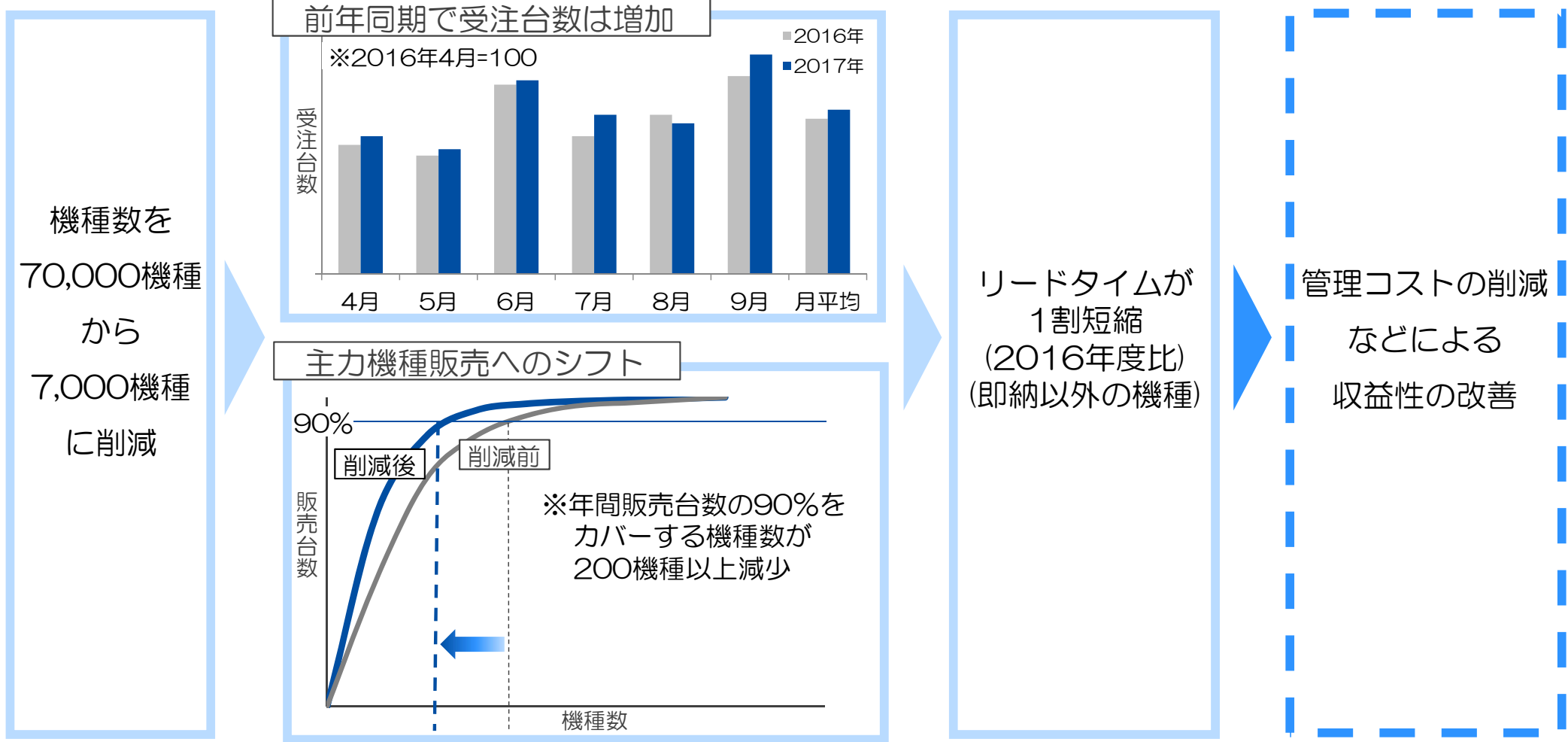


今期の主な進捗状況

1. 既存機種種の統廃合 標準ポンプ 収益性改善

✓ 機種削減後の進捗と効果

2017年12月期 4月 ~2018年12月期 第2四半期 ~2019年12月期 期末



2. 生産体制の抜本的な見直し

標準ポンプ

収益性改善

✓陸上ポンプの自動組立てラインの詳細計画を完了

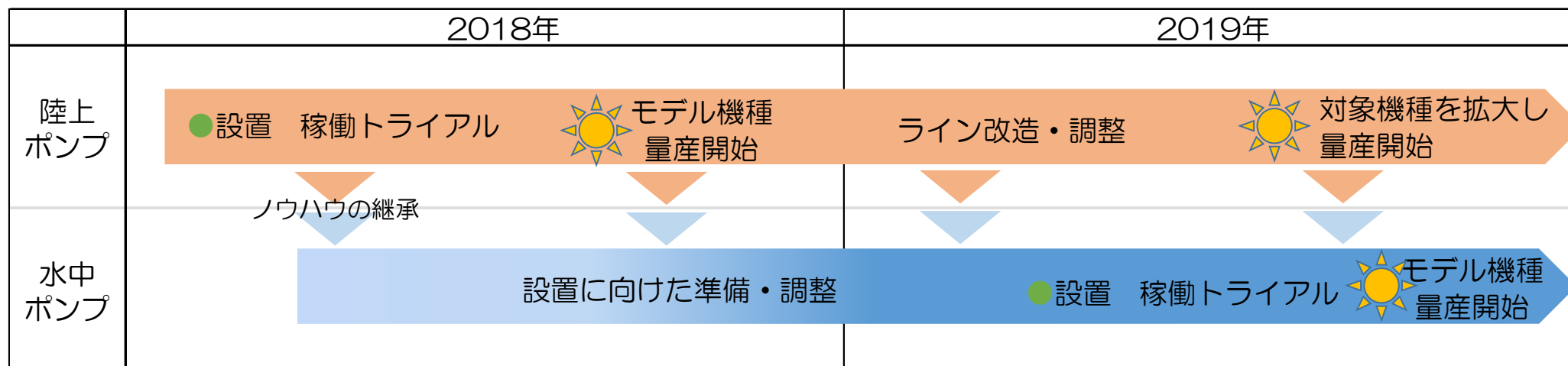
✓モデル機種 of 組立てラインを設置

〈ラインの概要〉

①自動化の目的は省人化と生産性向上、省スペース化および品質安定・向上

②量産に向けて検証を進め、8月に一部機種 of 量産を開始

自動組立てラインの構築スケジュールイメージ



3. 海外S&S事業の拡大

カスタムポンプ

S&S拡大

✓ サウジアラビア拠点にワークショップを開設

①設備概要

- ワークショップ土地面積：5,000㎡（オフィス含まず）
- サウジアラビアに納入されている各種製品の修理・補修など、幅広いS&Sのニーズに対応可能。
- 標準ポンプの製造設備。

②主な市場

石油・ガス市場、水インフラ市場

③強み

- サウジアラビアにおける過去からのポンプのインストール数は5,000台以上。
- ポンプ製造の経験を活かした高いメンテナンス能力（他社製品を含めた高いトラブルシューティング能力など）

⇒ 中東最大のマーケットで今期から順調に受注活動を実施。



4. 国内生産体制の構造改革 **カスタムポンプ** 固定費削減

- ✓ 追加施策として、国内の生産体制を最適化

現行の生産体制（富津工場・栃木工場・藤沢工場の生産ライン）を富津工場1か所に集約。

外部環境

- 石油・ガス市場は緩やかに回復
- 水インフラ市場はアジア、中東を中心に回復基調
⇒海外でのカスタムポンプの製品需要は引き続き高い

内部環境

- 海外拠点の生産能力向上
⇒日本国内からの輸出より現地生産で対応可能な案件も増加
⇒国内外でのシステム共通化による生産業務の効率向上

効果

- 生産体制の再編による国内工場の生産コスト、固定費の低減
- 海外拠点における生産効率の向上、製品競争力の強化

E-Plan2019 ROIC8%以上の達成に向けた二年目以降の取り組み

資本効率を重視しつつ、引き続き収益性の改善に取り組む

ROICの向上

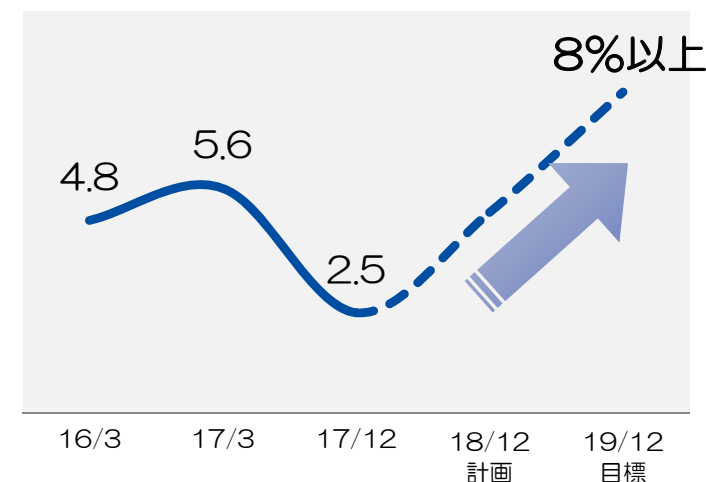
売上高営業利益率の改善

- 各事業で最新の状況に応じた施策の投入
- 施策の確実な実施と深化

資本回転率の向上

- **売上債権回転日数の短縮**
- **棚卸資産回転日数の短縮**
- 適切なバランスシート管理

【ROIC目標(2019年12月末)】



2. 今期の見通しと 経営戦略

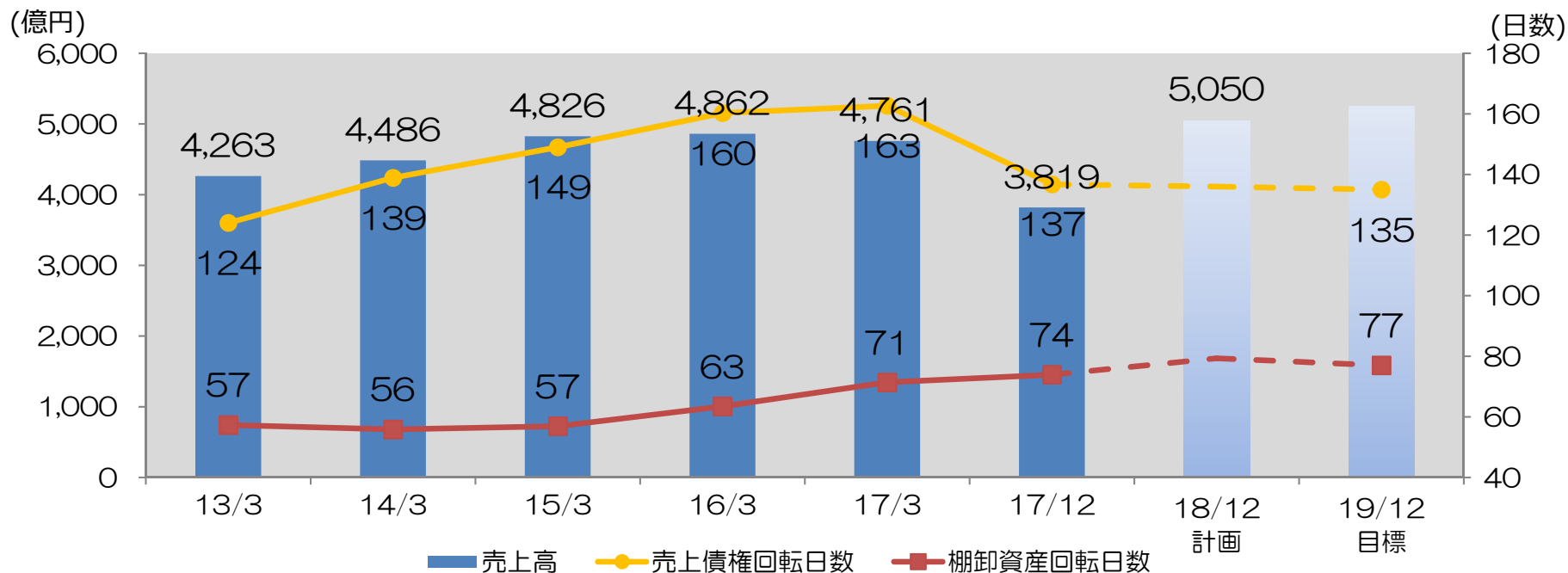
E-Plan2019 運転資本効率化



運転資本圧縮に関するKPI

KPI	2017/3 実績	2019/12 目標	具体的な取り組み
売上債権回転日数	163日	135日	■ 売上債権早期回収のための委員会設置など
棚卸資産回転日数	71日	77日	■ 標準ポンプの機種削減と生産ライン自動化 ■ コンプレッサ・タービンの納期短縮など

【運転資本回転日数】



本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定、を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。